

図書館だより

第5号

2016年（平成28年）1月27日発行

暖冬といわれていたのに、急に寒さが厳しくなり、雪が積もったりして、ついに「冬らしい」冬を迎えています。インフルエンザの流行が遅れてやってきているということです。体調を十分にととのえて学年末に望んでください。

さて、『図書館だより』も第5号となりました。掲示やパンフレットの形でどこかで目にするようになっていただけましたでしょうか。

現在、日本薬科大学図書館では、定期試験時期となりましたので朝やや早めの午前8時から開館しています（詳しくは図書館のHPや掲示板の「開館カレンダー」を御覧ください）。利用者は徐々に増えてきているようです。朝の時間は短時間でも、とても勉強がはかどると思います。是非、この機会を活用してみてください。（船山）

■お知らせ

《書評コンテストの表彰式が行われました》

昨年、多くの学生の皆様にご応募を頂き、11月の図書委員会でご賞を決定しておりました書評コンテストの表彰式が、12月14日（月）に学長室にて行われました。各賞の受賞者には、賞状と副賞の図書カードが贈呈された他、最優秀賞と優秀賞には記念のガラス製の楯も贈られました。また、丁学長先生からは恒例の副賞として、先生の著書をたくさん贈呈していただきました。

なお、入賞者の作品は「教職員共有一さいたまー2015 書評コンテスト」のフォルダー内に掲載しておりますのでご覧ください。（齋藤）

《図書館入口を飾り付けてみました》

皆様、お気づきだったでしょうか？ このごろ、図書館入口正面に、その時期にあった飾り付けがされていることを。

昨年の「ハロウィーン」の時期には“カボチャのランタン”を、「クリスマス」のときには“ファイバーツリー”、“お正月”を迎えるころには“和風”、そして今は、「節分」で“鬼のお面”など、図書館の入口で、学生の皆さんを暖かく迎え、学習の合間に少しでも心とめばと思い、飾っているものです。

今度図書館へお出でになる際には、入口正面の飾りにも是非、目を向けてみて下さい。

今後も、学生の皆さんが少しでも心とめ、季節を感じられるものを探して、飾り付けをしてみたいと思います。

皆さんのリクエストもお聞かせください。（齋藤）

《お茶の水キャンパス図書室より》

大寒も過ぎ、寒さ深まるこの頃、いよいよ後期定期試験に突入ですね。お茶の水キャンパスでも、図書室にて勉強をしている学生の数が増えたように感じます。

2号館1階図書室のカウンターには、購入希望図書用の紙を用意しております。希望する図書があれば、ぜひ記入して下さい。要望にできるだけ応えたいと思います。

今年一年が皆様にとって有意義な一年となりますように。（鈴木）



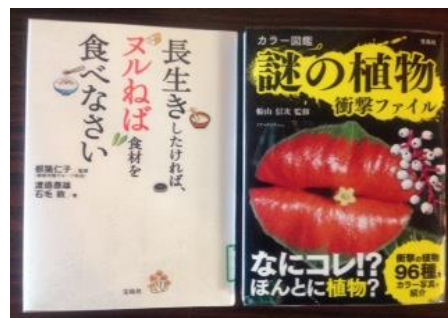
■新着図書より

《さいたまキャンパス》

都築仁子学園総長先生が監修された『長生きしたければ、ヌルねば食材を食べなさい』（宝島社／渡邊泰雄・石毛敦 著）を寄贈して頂きました。スーパーフードの「納豆」「オクラ」など、それぞれ、病気の症状別にどう食べて、どう効くのかレシピ付きで紹介されています。健康や美肌にお役立て下さい。

また、館長の船山教授監修の『謎の植物衝撃ファイル』（宝島社）を寄贈して頂きました。世界に存在する奇妙で危険な 96 種類の植物をオールカラーで紹介している図鑑です。

さらに、ブルーバックスの新刊としては、『研究者としてうまくやっていくには』と『意識と無意識のあいだ』が入荷しました。是非、ご利用ください。（山口・河野）



《お茶の水キャンパス》

一冊目は、『OTC メディケーション 虎の巻』です。OTC 薬のカウンセリング販売について、必要とされる知識とノウハウを網羅した実践書の決定版です。登録販売者試験を合格した方はこの本でスキルアップしてください。

二冊目は、『わかりやすい薬学系の統計学入門』です。高校レベルの内容から学べる、これまでにない丁寧な教科書で、解答を導くまでの考え方をしっかり解説！されており、例題や練習問題も充実しています。本学的小林先生と井上先生が執筆されています。是非手に取ってみてください。

また、お茶の水キャンパス 1 号館前にあるメディカルレビュー社より、『解けばわかる 100 の病気』、『ナースに知ってほしい 100 の病気』など、わかりやすく書かれた本を 5 冊寄贈して頂きました。（太田）



■著作権ミニ知識

Q：「禁転載」の注意書きがある論文の一部を引用する時、著者の了解を得なければならないですか？

A：公表された著作物は、「引用」できます。引用は、報道、批判、研究、その他の正当な目的があれば、仮に「禁転載」の表示があった場合でも、著作権侵害にはあたりません。（著作権法 32 条 1 項）（河野）

■図書館長のつぶやき（5）

《時間の使い方考》

かつてベストセラーとなった『知的生活の方法』（渡部昇一著／講談社現代新書／1976年）という本があります。大学生を含む知的生活を志す人々に種々の知的生活の心得を書いたものですが、この本の179頁に〈たっぷり時間をとる〉、そして181頁には〈半端な時間の使い方〉という項目があります。

それによれば、著作や、絵画、自然科学の実験などの生産的知的生活にはまとまった時間、とくに2時間か4時間という単位がちょうどいいのだそうです。これらの知的活動には道具や気持ちの準備に時間がかかり、それが中断されると再び道具や気持ちの準備に長い時間がかかるからとのこと。一方、半端な時間の使い方ですが、朝の講義が始まる前などの細切れの10分や15分といった時間は暗記に使うのに適しているようです。たとえば、1個の薬品名とその化学構造・薬理作用を覚えようと思ったらおそらく10～15分あれば十分でしょうし、むしろ、覚えるためにそれ以上の長い時間集中するのは難しいと思います。この毎日の10～15分の努力は大したことには思えませんが、この努力を365日続けたら、6年間で何と2191項目（閏年を入れました）の暗記が出来るということになります。まさに「継続は力なり」です。検討してみたいかがでしょうか。そして、健闘を祈ります。（船山）

発行：日本薬科大学図書委員会

委員長／船山信次

委員／木村道夫・青木公子・太田友三子・齋藤正・鈴木智恵

司書／山口涼子・河野利枝